

幸区総合防災訓練に自衛隊ブースを出展

自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所（出張所長 宮城英明1等陸尉）は、9月8日（日）、川崎市幸区の日吉小学校で実施された幸区総合防災訓練に自衛隊ブースを出展した。

この総合防災訓練は、川崎市域直下型地震等の災害を想定し、市民の災害対応力の向上を目的としたもので、起震車による地震体験、火災における煙体験や初期消火訓練などの実践的な防災訓練が行われ、来場者は真剣な態度で訓練に参加していた。

自衛隊ブースでは、災害派遣活動の様子をデジタルサイネージやパネルで展示したほか、自衛隊の車両展示や制服試着などを実施した。来場者たちは「土のつ」の作り方などのパネルに興味を示し、非常用糧食の展示を見て、種類類あることに驚き、「自衛隊さんは災害派遣の時はこういう物を食べて救助活動をしてきているんですね、頑張ってください！」と労いの言葉を掛けてくれる方もいた。子供たちには制服の試着が大人気で、制服を着て陸上自衛隊車両（パジェロ）に乗り込むと、保護者の方たちは「かっこいい！」「写真撮りたい！」と言いながら記念撮影をしていた。

川崎出張所は、「防災イベントに参加し、地域防災意識の高揚や、地域と自衛隊の活動等連携を深く進めていきたい」としている。



海自佐世保教育隊で入隊予定者の着隊支援

自衛隊神奈川県地方協力本部（本部長 大谷三穂1等海佐）は、9月25日（水）から26日（木）に、第22期一般海曹候補生課程への入隊予定者4名に対する着隊業務を実施しました。

出発当日、緊張した面持ちで羽田空港に集まった入隊予定者たちは、見送りにきてくれた保護者や友人から激励の言葉をかけられると、「頑張ってくる」、「やるしかない」と決意も新たに海上自衛隊佐世保教育隊へ向け出発しました。道中では入隊予定者間での自己紹介が行われるなど緊張もほぐれ、到着する頃にはしっかりと『同期の絆』が結ばれていました。佐世保教育隊に到着すると入隊予定者たちは正門前にて笑顔で記念撮影をして、「不安な面はありませんが、楽しみの方が大きい」、「早く生活に慣れるよう頑張ります」など、やる気に満ち溢れた表情で、自衛隊生活の始まりとなる正門を意気揚々とくぐりました。そして、入隊予定者たちは身体検査や面接などの一連の手続きを終え、最後に「服務の宣誓」を行ってよいよ入隊となり、着隊業務はここで終了しました。

神奈川地方協力本部は、「我々に求められている部隊の人的基盤の充実を図るため、今後の自衛隊を担う若者を一人でも多く送り出せるよう、入隊希望者に寄り添う募集活動を引き続き実施していく」としています。



正門前で記念撮影